

[別紙－1] 概要文

新たなプローブデータを活用した管内交通状況の把握について

南部国道事務所 調査第一課 ◎眞栄里 和也
○下地 義光

1. 目的

管内の交通状況を表すのに使用されるデータの一つとして旅行速度がある。南部国道管内では慢性的な渋滞が発生しており、平成17年度センサス結果では、朝夕ピーク時の旅行速度にて大阪市、東京都（特別区）を抜いて那覇市でワースト1（約14km/時）となっている。

過去のこのような旅行速度等のデータについては、全国的な道路センサス調査などにおいて、比較的安定する9月～11月の特定の一日に着目し整理がなされてきた。しかしながら、現在では、プローブ観測機や民間の自動車メーカー等の開発もあって、民間の車両を利用した365日（24時間）でのプローブデータの収集も可能となってきた。

本件は、これらの民間車両から取得した新たなプローブデータを用いた管内交通の分析を行い、南部国道管内の交通状況を把握することを目的とする。

2. 内容

本件は、新たなプローブ（インターナビ）データを活用した管内の交通状況把握について、現況のデータを用いて分析が可能であるかを検証し、分析での課題や対策について検討したため、検討結果について報告するものである。

3. 結論

- ①インターナビデータの長所として、データが通年で取得できているため管内の各路線について月別、季節別に、時間別、方向別、など細かな分析が可能。結果、時間軸と連動した渋滞の発生箇所（ボトルネック箇所）などの抽出ができ交通状況把握として十分利用可能である。
- ②インターナビデータの短所として、沖縄県におけるデータ取得状況が全国に比して低いため、一部の路線でデータサンプルが不足している。
- ③データ不足部での補完の仕方など一部検討の余地がある。

4. 今後の問題点

新たなプローブデータについては、平成21年度からデータ取得が始まっているが、データサンプルが必ずしも十分であるとは言えないが、基礎データとして十分活用ができるものである。サンプル数については取得数の伸びが確認できており、今後は期待できる。

一方、データの質については、既存の保有データ数が少ないため不足データを補完する際に実態との乖離が発生することも確認された。

今後は、データの取得状況やデータの質（補完データ内容）を確認し、不足部分については、タクシーやバスナビなど、他の民間データの取り入れも考慮していく必要があると考える。